

《2019年カンヌ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞、インディペンデント批評家賞W受賞作品》

喪失、記憶と記録、  
まだ終わらない悪夢

# The Cordillera of Dreams

## 夢のアンデス

監督・脚本:パトリシオ・グスマン 撮影:サミュエル・ラフ 編集:エマニュエル・ジョリー、パブロ・サラス 録音:アルバロ・シルヴァ・ウス、アイメリク・デュバス、クレア・カフ 音楽:ミランダ・イトバー  
出演:フランシスコ・ガシタ、ビセンテ・ガハルド、パブロ・サラス、ネルヘ・バラディットほか (ナリ、フランス/2019年/85分/16:9/スペイン語/原題:The Cordillera of dreams) 日本語字幕:原田りえ 配給・宣伝:アップリンク

scénario et réalisation Patricio GUZMÁN production Renata SACRÉS - Alacena Producciones (France) co-producteurs Olivier PERE, René BOURAL, Fabrice POCHEULT - ARTE France Cinéma (France), Eric LAEGESSE - Sampak Productions (France), Alexandra GALVIS - Market Chile (Chili) image Samuel LAFU images additionnelles Pablo SALAS montage Emmanuelle JULY son Alvaro SILVA WITTE, Aymeric BOPAS, Clara CARU musique Miranda à Tobo production exécutive Benjamin LAMBLON investissements Centre National du Cinéma et de l'Image Animée, Région Île-de-France, George National de las Culturas, las Artes y el Patrimonio, Tropic-Silim, CINE+ - ARTE France distribution France Pyramide ventes internationales Pyramide International ©Alacena Producciones - ARTE France Cinéma - Sampak Productions - Market Chile / 2019

FRANCOFONIE ARTE \* Les France CINE+ UPLINK

南米ドキュメンタリーの巨匠パトリシオ・グスマン監督作品

『光のノスタルジア』『真珠のボタン』に続く、チリ弾圧の歴史を描いた3部作最終章。



2019年カンヌ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞、インディペンデント批評家賞W受賞作品

セザール賞最優秀ドキュメンタリー賞ノミネート/トロント国際映画祭正式出品/サン・セバスティアン国際映画祭正式出品/サンフランシスコ国際映画祭正式出品/ロンドン国際映画祭正式出品/シカゴ国際映画祭最優秀ドキュメンタリー賞ノミネート/ニューヨーク・ドキュメンタリー映画祭正式出品/カルロヴィ・ヴァリ国際映画祭正式出品/メルボルン国際映画祭正式出品/ミュンヘン国際映画祭正式出品/LASA映画祭特別功労賞受賞/アムステルダムドキュメンタリー国際映画祭正式出品/釜山国際映画祭正式出品

# 絶望をこえ、過去と未来を見据え、どう生きるべきか、私たちの「今」を問う。

世界最長の山脈、アンデス。チリの国境に沿って大きな壁のごとくそびえる不変の山々は、その足元で繰り返される生と死を、ただ静かに見つめ続けている。

1973年9月11日、チリ・軍事クーデター。世界で初めて選挙によって選出されたサルバドル・アジェンデの社会主義政権を、米国CIAの支援のもと、アウグスト・ピノチェトの指揮する軍部が武力で覆した。ピノチェト政権は左派をねこそぎ投獄し、3000人を超える市民が虐殺された。

監督のハトリシオ・グスマンはアジェンデ政権とその崩壊に関するドキュメンタリー『チリの闘い』撮影後、政治犯として連行されるも、釈放。フィルムを守るため、パリに亡命した。「2度と祖国で暮らすことはない」と話すグスマンにとってアンデス山脈とは、永遠に失われた輝かしいチリ＝グスマンの夢の象徴である。

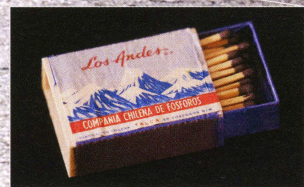
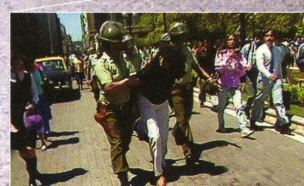
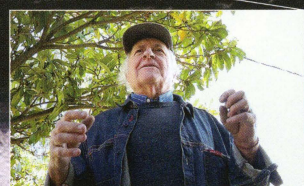
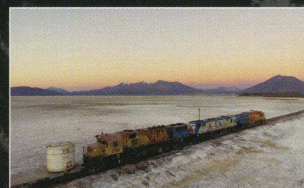
## いまなお続く、ピノチェトの遺産—新自由主義の実験の場となったクーデター後のチリ

クーデターがもたらしたものはそれだけではない。ピノチェトは世界で初めて、新自由主義に基づく経済の自由化を推し進めた。米経済学者のミルトン・フリードマンを中心に形成されたシカゴ学派の学者たち—いわゆる「シカゴボーイズ」が招かれ、経済政策の顧問団を形成した。新自由主義は、芸術、文化、健康、教育すべてにおいて利益を追求すべきという利益最優先の価値観を人々にもたらした。結果、チリ社会は国民の間に激しい格差を生み、主要産業である銅の採掘は今やほとんどを多国籍企業が担っている。ピノチェト政権は国の財産を売り渡したのだ。

## 『光のノスタルジア』『真珠のボタン』に続き、チリの歴史的記憶、政治的トラウマ、地理の関係を探る三部作最終章。

インタビューに登場するのは、アンデスの原材料を使って作品を制作する彫刻家のピセンテ・ガハルドとフランシスコ・ガントッア。歴史や小説の作家であるホルヘ・バラディッドは、現代のチリの社会・経済構造におけるピノチェトのプロジェクトの継続について語り、音楽家のハビエラ・パラは、子供の頃に目撃した暴力を思い出す。1980年代以降、政治的抵抗や国家による暴力行為を記録するために活動してきた映像作家であり、アーキビストでもあるパブロ・サラスはこう語る。「記録し、どんな時代だったのか次の世代に伝えたい。二度と過ちを繰り返さないために」

1973年9月11日、チリ、軍事クーデター。それはわたしたちの人生を永遠に変えた。



2021年10月9日(土)公開 11月19日(金)まで

特別鑑賞券 ¥1,500円 8月6日(金)より発売 (当日一般 ¥1,800円、シニア・学生 ¥1,500円) ※岩波ホールでの販売は10/8まで

※新型コロナウイルス感染状況により、上映時間の変更・中止の可能性がございます。ご来場前に、劇場HPやお電話でご確認ください。

03 (3262) 5252  
**岩波ホール**  
www.iwanami-hall.com

・地下鉄(都営三田線、新宿線、東京メトロ半蔵門線)神保町駅A6出口すぐ上  
・JR(中央線)水道橋駅または御茶ノ水駅下車徒歩12分・神保町交差点角